

令和8年度 第1回高知県おもてなし県民会議 議事要旨

日時：令和8年7月15日（水）13:30～15:00

場所：高知共済会館 3階 桜

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委員紹介
- 4 今年度の取り組み
 - (1) 高知家おもてなしキャンペーンの実施について
 - (2) 高知家おもてなし県民表彰及びおもてなしトイレ認定制度の実施について
- 5 意見交換

テーマ：大河ドラマ「ジョン万」放送開始に向けた取り組みのアイデア

○ 県の取り組み状況についての情報提供

「大河ドラマを生かした観光振興の検討の方向性について」

<意見交換>

【植田会長】

「ジョン万」の放送開始に向けた取り組みのアイデア等について意見交換を行います。

こんなことをしてみたい、こうすれば良いのではないかといったご意見や普段から思っていることなどをお話してください。

【三井委員】

ジョン万について、先月、史談会事務局長の青野先生のお話を聞く機会がありました。その先生が仰るには、ジョン万が宇佐から船出したときは5人で、ハワイで1人亡くなり、ハワイで結婚して残られた人が1人いた。そして、高知に帰ってきた方が3人とのことです。ジョン万だけではなく、一緒に行った方々についても、もっと注力していただきたいとのことで、その通りだと思います。

また、宇佐に船出館といったものを造られたらどうかと思います。それは単にジョン万だけではなく、一緒に行かれた4人の方々の生涯なども紹介する形です。

それから、宇佐はUSAと表すことができますから、「USA（宇佐）からUSA」というキャッチコピーを勝手に考えました。

宇佐だけではなく、横浪スカイラインも良いところだと思います。イタリアに行ったときにアマルフィの海岸を見て、横浪スカイラインと変わらないのではないかと気づきました。これを機会に宇佐だけではなく、横浪スカイラインや鳴無（おとなし）神社など良いところを含めて幅広い観光振興につなげていただければと思っています。

【海老塚委員】

今回の計画を見ると県全域を巻き込むことが伝わってきます。

以前から言っていることですが、高知県は公共交通の連携ができていないと思います。高知駅で降りても、西にはどうやって行くのか。窪川駅で降りて周辺の観光地へ行くにもバスの乗り継ぎや公共交通の連携、案内の整備などの充実が図られると、観光客にとってより来やすいと思っています。

お遍路さんにしても同じことが言えます。次の札所へ行くにはどうすれば良いかと聞かれた際には、「このバス停で降りてくださいね。ここからだと何キロ歩きますよ。」としかお答えできない。公共交通機関の充実を図ると、観光客の方が増えるのではないかと思います。

【植田会長】

土佐清水までの往復でかなり時間がかかり、止めようかという感じになってしまう。公共交通を利用すれば少しは楽ですが、そのような手段が少ない、あるいは分かりにくいように思います。交通が一番のネックなので、例えば、バスやタクシーを利用して土佐清水まで行く周遊コースの企画等は難しいのでしょうか。

【山本委員】

既に高知県観光コンベンション協会で作っています。ただ、お客様と料金の面で相容れないことが多いようで、あまり利用されていません。タクシー業界は手を広げてお持ちしている状態です。

【植田会長】

PRの工夫はないでしょうか。

【山本委員】

PRが今ひとつなのは確かなことだと思います。例えば、クルーズ船客の移動をよく精査してみると、高知新港からはりまや橋までバスで行くのと、タクシーで行くのとでは、4人乗車した場合はタクシーの方が安い。そのことがお客様に全く伝わっていません。旅行業者が用意する1時間コースや5時間コース等のタクシー利用のオプションツアーは発達しているが、目的地までの移動手段としてPR不足を感じます。私どもの業界から乗船客に直接PRすることは難しいため、クルーズ船の中でもう少しPRしていただけると良いと思います。

【植田会長】

課題が見えてきた気がします。バスが安いという思い込みもありそうです。

【三井委員】

高知新港からはりまや橋まではバスで往復25ドルです。2人で利用する50ドルですから、タクシーの方が安いです。昨日もドイツ人客をご案内しましたが、タクシーが安いと利用されていました。

【植田会長】

県としては何か取り組まれていますか。

【国際観光課】

船内でのPRは船会社との調整が必要になるため、なかなか実現が難しいというのが現状です。一方で、船が来た際にははりまや橋バスターミナルに臨時観光案内所を設置して、市内観光をご案内している。

【植田会長】

はりまや橋まで時間がかかるので、高知新港から観光地へ直行した方が良いと思う。客船ターミナルでPRができないか。

【国際観光課】

客船ターミナルにも観光案内所を設置して、例えば、桂浜から直行する案内もしています。客船ターミナルから高知市内へのシャトルバスをご利用いただいた観光客には、バスターミナルの臨時観光案内所でご案内をしています。

【植田会長】

もう少しPRの仕方を考えていく必要がありそうです。

【事務局】

土佐清水市やゆかりの深い宇佐のある土佐市をはじめ、これから各地域での取り組みが進んでいくと

考えています。県では市町村との意見交換を進めていますので、ご紹介させていただきます。

【観光政策課】

資料の3ページ目。特に大事だと思っているのが、2層目をどうしていくかです。市町村には、ジョン万と一緒に船出した方々のストーリーと一緒に載せるような企画を考えていただきたいと思います。例えば、香南市であれば長平さんというジョン万より先に種子島に漂流して行った方がいます。そうした方も絡めながら、「ジョン万」の第2層のコンテンツを増やしていくことが、今回の大事なところだと思っています。

土佐市では、宇佐はUSA とのことをすごく意識して、出国の地と称したいとの話や観光案内機能のある施設を整備したいとの話も挙がっています。そうした施設は、集客にふさわしいとのことであれば、1層目の拠点に位置づけながら受け込めるような施設にしたいと思っています。

こうした取り組みを各地域に広げて、これまでの歴史観光で磨き上げた施設になお一層の磨きをかけて第2層の厚みを増していくように取り組んでいきたいと考えています。

【重岡委員】

土佐観光ボランティア協会では、「土佐っ歩」というコースでご案内しています。そのコースの中には、河田小龍の生誕地を回るコースもあります。河田小龍の生誕地は、河田がジョン万と寝食をともにし、彼の行動を記録した「漂翼紀畧（ひょうそんきりやく）」を書いた場所です。ここではジョン万との接点を説明し、坂本龍馬記念館では龍馬との関わりについて説明しています。坂本龍馬は19歳で江戸の千葉定吉道場に剣術修行に行きました。嘉永6（1853）年にペリーが浦賀に来航し、その警備に龍馬も動員されました。土佐に帰って河田小龍に会う。河田小龍は、安政の地震で上町の築屋敷（つきやしき）に引っ越していた。そこは龍馬の家から200～300メートルの近さでした。そこで小龍との間で、海運で利益を上げて貢献するとの彼の夢が実現する場ができた。そうしたことをもっと説明して、足を運びたいなる雰囲気をつくっていききたい。

【植田会長】

意気込みがぐんと伝わってきました。

高知市商店街でも観光客を呼び込む取り組みをしていかなければならないのではないのでしょうか。

【早川委員】

私たちの商店街では、ジョン万が使った日本語英語を上手に取り入れながら、観光客の皆様に、少しでも雰囲気味わってもらえることができると思っています。高知市の方に対し広域に足を運んでもらう仕掛けをご提案いただいたら、商店街でも飲食店等も含め協力し、一緒に盛り上げていきたいと思っています。

よさこい高知文化祭の広報ボランティアは、文化祭が終わったらなくなるのですか。各地域の皆様が広報担当となり、地域の魅力をどんどん発信していく仕掛けは、「ジョン万」でも広域に足を運んでもらうことに利用できるのではないかと考えています。

【よさこい高知文化祭課】

広報ボランティアの「よさぶんひろめ隊」は、現在5,000人ほどいます。バッグ等の広報グッズを身につけて広めていただく方法で、多くの方にお集まりいただいている。この仕組みは、大会後も何らかの形で活用できたら良いとの思いはあります。ご要望があれば、こういった形で活用できるかを検討していきたい。

【早川委員】

ぜひ、お願いします。

【事務局】

文化祭を盛り上げるために広められた輪ですが、今度はそれを私達が「ジョン万」で活用できるよう

にしたいとの思いはあります。

観光政策課でも「高知のファン」を広げたいという思いがあり、様々な人に高知のファンになっていただき、その方達がまた別の方に高知を紹介していただくことで、高知のファンをさらに増やすファンサイトを設置し、情報発信したりして交流をしていただくことを準備している。

ファンサイトを開設することができましたら、委員の皆様にもご紹介をさせていただきますし、活用して交流を広げていただく仕掛けになればと思います。

【植田会長】

皆様にお手伝いを呼びかけてもらえたら協力できると思います。ぜひやっていただきたい。

【早川委員】

商店街が企画する盆踊りでは、ポスターやチラシは必要最低限だけ作り、あとはSNS等で個々の皆様とのつながりでどんどん広報することをも試してみようと思っています。

【上村委員】

私から要望と、意見がございます。

よさこい国民文化祭はとても良い機会だと思っています。興味・関心で来るのではなく、大会があるから来る。そうした方々に、高知の魅力を伝えられる千載一遇のチャンスだと思っていて、PRをするために知りたいことは、いつどれだけのお客様が見込めるかということ。

開催日程は承知しているが、規模感が全然分からない。事前に予想人数等の規模感をお知らせしてもらえると、人出の多いところに集中的にリソース投下をするといった対応が可能。デジタルPRもすごく大事だと思いますが、やはりリアルも大事なので、ひろめ隊の方々にチラシを配ってもらうなど、「ジョン万」のPRをしてもらえたら良いと思います。

【よさこい高知文化祭課】

いつ、どこで、何の競技をするのかは把握していますが、開催県によって規模が変わることもあり、具体的な人数を把握しきれていない状況です。今後、こういった形でお伝えできるか、持ち帰って整理をさせていただきたいと思います。

【上村委員】

前回、前々回大会のサンプルがあると思います。例えば、各大会委員会から情報を得ることができると思いますが、いかがでしょうか。

【よさこい高知文化祭課】

基本的には、全国規模で活動されている文化団体が主催です。

【上村委員】

宿泊予約をする方々は、例えば、キャパシティが100人では厳しいといった発想はあると思います。

ですから、その辺から推測する方法もあるのではないかなと思う。データがあれば協力もしやすい。PRするのも「ジョン万」だけでなく、「らんまん」「あんぱん」と合わせて、令和の高知ドラマ3部作といった感じでPRすると良いと思います。データがある方が私たちも協力しやすいと思います。

【よさこい高知文化祭課】

確認します。

【上村委員】

今回メインは土佐清水市とのことですが、ジョン万は14歳までしか高知にいなかったのが高知のシーンは短くなるのでは、と宿泊業界は非常に危機感を持っています。

ドラマで映っていた場所に行ってみようとは思わないと思うのでPRする必要がある。仮に土佐清水

に來られたときにはキャパシティの問題もある。具体的な観光客の行動シミュレーションをする必要があると思っています。県で、家族連れや大学生などの若い方などセグメントを分けて様々な形をシミュレーションしてみただけだったらいいと思います。

PRの話ですが、私はWebを使ったものが大切だと思っています。これからAIで検索することが増えてくると思うので、どういう形のPRが良いのか、考えてもらえると良いと思います。

構造化されたデータを整備する、よくある質問をまとめる、そういった細かいことをする必要があると思います。県がやると権威性が高くAI検索したら出てくる可能性が高いと思うので、WebPRを充実させていくことを考えていただきたいと思います。

【事務局】

昨年、観光政策課でも予算を考える過程で、AIがどのような価値基準でインターネットから情報を収集するのか、またAIに高知県を検索させるためにはどうすれば良いかといったことが議論になった。

若い世代を中心とした職員からは、AIに収集されやすい素材を出すことが、今後の新たな観光振興のプロモーションや戦略の中核になっていくのではないかと発言もある。そうしたことを意識してコンテンツを作ることに、戦略的に取り組まなければいけないと話しています。

「ジョン万」のドラマでどの程度高知のシーンが出るかが未知数である中で、できる限り高知にチャンネルを合わせていただけるようなチャンスを拾っていくことが非常に重要になる。皆様と知恵を出し合って、取り組んでいかなければいけないと思います。

一方で、土佐清水市などの各地域では環境整備、あるいは交通機関も含めたアクセスが課題であると認識しつつ、地域の皆様のお考えをくみ取りながら支援していく考えです。

県としては、県全域を巻き込んでPRすることをベースとする一方で、おもてなし県民会議、あるいは県民の皆様を巻き込む活動をどのように展開できるか、悩ましく思っているところです。

これから「ジョン万」推進協議会で、様々なことが決まる。例えばキャッチフレーズ、テーマカラーやキャラクターなどの観光素材ができて上がるが、そうしたものも活用しながら、県全域で盛り上げていくための県民会議の活動を仕掛けられたらと考えている。

今後、おもてなしの取り組みを仕掛ける際には、ぜひ、委員の皆様の地域、あるいは組織の中で一緒に盛り上げて取り組んでいただけるようご協力をお願いします。

今年のおもてなしキャンペーンの中で、どっぶりジェネレーターを活用した取り組みを提案した。これは「ドラマが生まれる地 高知」のイメージは県民一人一人違うのでは、との職員の意見が発端。県では6パターンのドラマを象徴するPRポスターを作ったが、県民一人一人の考える「ドラマが生まれる地 高知」は違った場面のはず。観光客に県民が薦める「ドラマティックな場面」を見ていただくことで、おもてなしにしたいと考えた取り組みです。

どっぶりジェネレーターの活用など県民一人一人が参加しやすい方法で、皆様から取り組みの提案をいただき「ジョン万」へとつなげたいと考えています。

こんな仕組みがあったら良いといったアイデアレベルでも構いませんので、ぜひ提案ください。

【植田会長】

こうした取り組みで、皆様が撮った写真をたくさん並べて見てもらい誘客につなげることが、1番の良いことだと思います。

【事務局】

キャンペーン期間中に集めた画像を、デジタルサイネージなどにしてタッチポイントで掲出し、リアルでつながることをキーポイントにした。「多面的な魅力が詰まった高知にようこそおいでくださいました」とのおもてなしにすることが狙い。

この掲出する画像が多ければ多いほど誘客チャンスになる。委員の皆様から周囲に広めていただき、観光の一端を県民が担っていることも広めていただけたらありがたいと思います。

【植田会長】

ぜひ、皆様ご協力をお願いいたします。皆様も撮影した写真がたくさんあると思いますので、応募し

てもらって、画像を見た方が来てくれたらいいなと思います。

龍馬マラソンのボランティアについてご案内があれば、いかがでしょうか。

【スポーツツーリズム課】

第13回目になります龍馬マラソンを、来年2月21日に開催します。職員も含め3,000人規模のボランティアを募集していますが、年々集まりが難しくなっています。皆様のお力添えをいただくこともありますので、その際はよろしくお願いします。

【植田会長】

ボランティアもおもてなしと捉えることが出来ます。皆様もお声がけをお願いします。

【笹岡委員】

2点ほど、お伝えしたいことがあります。

6月から10月までのクルーズ船の来航日を中心に、はりまや橋商店街の「はりまやアンサンブル」を拠点に、電動カート貸出の実証実験を有限会社ファクトリーさんが行っています。クルーズ船観光客には高齢の方や足腰の弱い方も増えているとのことで、高知城やひろめ市場に行ってもらうために実証実験を行っています。今のところ4時間3,000円の設定ですので、必要な方にぜひ活用していただければと思います。

もう1点は、6月17日にバリアフリー観光推進セミナーを開催しました。今回は、よさこい高知文化祭関係者を対象に開催したところ過去最高の100名を超える参加がありました。現場の皆様はすごく情報を知りたいと思っている、あるいは困っていることが分かりました。

観光政策課おもてなし室の事業として、アドバイザーの個別派遣が行われています。例えば、視覚障害、聴覚障害、車いすの障害の方への対応や、実際に施設を見てどこを直すべきか教えていただくこともできます。ぜひご検討ください。

【事務局】

補足をさせていただきます。よさこい高知文化祭は、全国障害者芸術・文化祭との位置づけもあり、県内で29の障害者文化祭事業が予定されています。当然、その会場施設の方や地元市町村でお迎えされる方がそれぞれに準備されている。ご案内する際の気遣いも含め、スタッフが戸惑いを感じることもあると思われる。事前にこうした制度を積極的にご利用いただき、少しでも不安解消につなげていただければと思います。

【植田会長】

まだまだ、いろいろご意見あるかもしれませんが、ご意見等がありましたら、事務局の方までメールでお知らせください。

そろそろお時間になりましたので終わりたいと思います。

【事務局】

事務局にお寄せいただいた意見等も参考に、できれば「ジョン万」の開始の1年前ぐらいから活動ができればと思います。第2回の県民会議でご報告・ご相談させていただければと考えておりますので、委員の皆様の所属される組織、あるいは地域の方々からのご提案をお待ちしています。